

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年2月29日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	19か所	(回答数) 13か所
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的にわかりやすく、取り入れやすいものが多く、課題や困りごとへの解消に繋がっているとのご意見を頂いている。	研修や、講座などを通して専門性の向上に努め、様々なニーズに対応できるように努めております。また、訪問支援の振り返り時には必要に応じて、感覚グッズなどの実物や資料等を提供し、具体的に分かりやすい説明を心掛けております。	今後もこどもの様子や、訪問先の方針、意向にも応じた形で現実的でわかりやすい説明、助言と提案で効果的な支援の実現に努めてまいります。
2	訪問先や保護者に対して、事業の目的や支援の内容について説明が行われ、訪問支援実施後には保護者に対して適切に共有している。	訪問先(所属先)との協力関係の下、共通認識をもって効果的な支援に繋がるように話し合いの時間を持っています。保護者に対しては、訪問当日の様子の電話報告と記録作成後の面談を訪問支援の基本的な流れとして行っています。	今後も引き続き、こどもの支援に関して3者(訪問支援員、家庭、学校)が共通理解の上、安心して支援を受けてもらえるように訪問記録などを通して丁寧に説明、情報共有を行ってまいります。
3	保育所等訪問支援計画には、こどものことを十分に理解(課題の分析や、特性理解など)し、保護者や所属先のニーズを取り入れた形で作成している。	訪問支援計画を作成する前に、所属先と保護者に対して対象のこどもの様子や課題の確認を行い、目標設定を行っている。	今後も引き続き、丁寧な観察や聞き取りを行い、共通認識をもちながら課題を共有の上、支援目標を設定してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援の待機期間が長い。	こどもの観察や訪問支援開始までのおおよそのスケジュールについて意識的に見直しを持った管理・調整が不十分だった面があります。	PC内での管理・調整だけでなくホワイトボードを活用して見える化することでスケジュールをより意識した上で見直しを持って対応していきます。また、保育所等訪問支援について案内する際に、当事業所以外の保育所等訪問支援を実施している事業所の紹介も行なってまいります。
2	訪問支援に使用する教材教具が十分に整えられているかどうか分からない。	口頭や書籍の写真等を使つての説明、紹介にとどまる点が多く、実際に手に取って使用感を直接感じてもらえるような働きかけができていませんでした。	今後は教材教具など実物を揃える等、資料の充実に取り組んでまいります。その上で利用児童や保護者に実際の使用感を体験していただき、教材教具等の有用性や利便性等納得できるように工夫してまいります。
3	必要な家族支援プログラムや家族等が参加できる研修会、情報提供の場が十分に周知、提供されていない。	事業所として行っている学習会や研修会の案内は、市広報誌、案内チラシ等で周知を行っていますが、保育所等訪問支援利用者(保護者)に改めて案内することができていませんでした。	保育所等訪問支援記録の懇談時などに直接チラシを渡すとともに口頭で説明する等して十分な周知と活用を促す働きかけを行ってまいります。